

1

日本という国「火炎土器」

日本を見つめ直し、楽しく生活、仕事しましょ、シリーズ

火炎土器は日本人に過小評価されているかもしれません。

たとえば、イギリスのストーンヘンジを建てた人、フランスのラスコーの壁画を描いた人、ローマの古代遺跡を作った人々、と現在のそれぞれの国の民は遺伝子的なつながりはありません。また、古代エジプト文明は現在のエジプトの人々に引き継がれているとはいえません。

しかし、火炎土器を作った縄文の人々はまぎれもなく私達の祖先であり、その特徴は現代人にも引き継がれています。これは世界的にも非常にまれなことです。

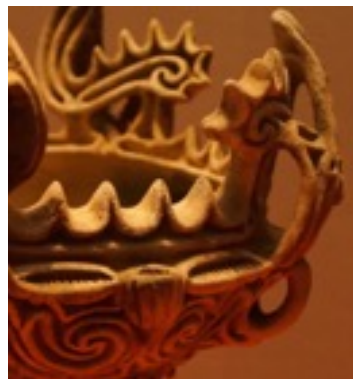
特徴の一つとして、火炎土器の様な装飾過多ともいえるようなこのような形式の土器は世界に類例がありません。その造形の緻密で大胆な生命力を感じる姿は多くの芸術家に絶賛されており、日本人の独自性の芽生えを表すわかりやすい例です。

また、よく見ると左右対称ではないことが分かります。対称の美を感じる事が世界で一般的ですが、日本人が幾何学的な対称を好まないことは、前方後円墳の形や、法隆寺の伽藍配置や、茶道の茶わんのゆがみを好むことや、庭園の配置や、神社の鳥居の柱の太さが微妙に左右対称ではないなど、火炎土器には日本人の非対称に美意識を感じる特殊な感性の芽生えをはつきり感じることができます。

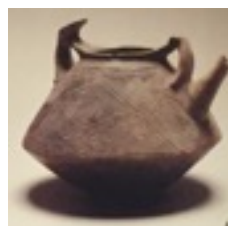
また、これらの壺形の土器が実際の煮炊きに使用されていたことが分かっています。大量の土器がこの時代に煮炊きに使用されていたことも世界で類例のないことです。おそらく、日本は世界の火山の10%が集中しており、土が高温で焼かれると煮炊きに使用できる道具にできることを早く知っていた可能性が高いと思います。その壺で、肉、植物、魚、貝などが煮炊きされていたことが知られています。混ぜて煮炊きすることによって、うま味の味覚が発達することになります。現代の日本人のうま味に対する感覚や鍋料理好きの原点は縄文の時代の祖先の人々にさかのぼることができます。

火炎土器は、現在の日本人が今突然あるわけではなく、長い時の流れの蓄積であることを知らせてくれています。

これだけ装飾性の豊かな道具を使っていた人達が粗末な服を着ていたはずがありません。もしかしたら、現代人を目に見えない世界で見ている、随分質素なものを着るようになったものだと言っているかもしれません。



部分拡大



千葉県出土縄文土器
現代の私達の使っている
急須のほうが地味かもしれ
ません。